





# 近・現代 関川郷の人びと

執筆：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

## 三須眞太郎

関川村消防団長として自治消  
防に貢献した三須眞太郎は大正  
十三年五月十九日関川村下関に  
三須利三郎の長男として生まれ  
た。

昭和十七年四月十日第二師団

第二十七部隊（仙台）に入隊。  
昭和二十年九月三十日に復員。  
戦後は農業に従事しながら建  
築土木工業を営んだ。また株  
式会社コスギニットの誘致に協  
力し昭和四十五年八月から二十  
年間監査役を務めた。

三須眞太郎の第一の功績は昭  
和二十二年四月一日関谷村警防  
団第一分団団員を拝命してから  
平成二年三月三十一日までの四  
十三年間の長きにわたり村の消  
防団活動に尽力したことである。

特に昭和四十六年二月六日から  
関川村消防団副団長として、更  
に五十九年四月一日から消防団  
長として活躍した。豊富な知識  
経験をもって消防団の育成と強  
化に務めるとともに、災害発生  
に際しては率先垂範消火防災の

指導にあたり、被害を最小限に  
止めるなどその功績は大きい。  
団員の質の向上を図るため新  
潟消防学校の消防団指導者研修  
の受講に途を開いた。消防水利  
不足解消のため、土地所有者か  
ら無償で用地を借受け防火水槽

の設置に努力し、村当局に働き  
かけ村広域水道に消火栓の設置  
を実現した。また初期消火用小  
型動力ポンプの購入を強力に進  
め各集落一台配備の実現を図っ  
た。また本防火水槽を村当局に

懇請し、昭和五十六年度より平  
成年まで四十立方メートル級  
有蓋防火水槽二十五基を整備、

民心の安定に寄与した功績は大  
きい。団長に就任以来消防団組  
織の強化、近代化を図り、昭和  
六十一年十月一日開設された岩  
船地域広域消防関川分所と密接  
な連携をとり有事における消火  
活動等役割を分担するとともに、  
有事発生時の消防団への連絡の  
徹底と民心の安定のため、村内  
全戸に広報無線機を村当局に強  
く働きかけ昭和六十四年一月一  
日から開始できた。

次に交通安全関係では昭和五  
十七年五月一日村上地区交通安  
全協会関川支部中央支会長に就  
任。昭和六十二年四月一日から  
村上地区交通安全協会の監事や  
理事を務め、事故防止と地区の  
交通安全意識の高揚に貢献した。

また三須眞太郎は老人クラブ  
功労者でもある。即ち平成七年  
三月から十三年四月まで下関み  
のりクラブ会長、村老連会長、  
郡老連理事を同時に務め、老人  
クラブの発展に寄与した。

生涯地域の人々のために尽く  
し、平成二十年十二月二十六日  
八十四歳でこの世を去った。  
平成四年四月二十九日勲五等  
瑞宝章を授与された。

・三須家の系図

先祖

卯三郎

利三郎

眞太郎

和子

正

## せきかわ文芸

### 関川俳句の会作品

健やかに傘寿となりて初鏡

渋谷 くに

鎌倉の空を仰げば実朝忌

渡辺しづい

差す日脚日毎にのびて畳の間

南 セツ

冬木の芽ふくらみややの肌のこと

青木 慶一

友見舞い笑顔に安堵冬日ざし

佐藤 ノブ

初蝶に越えねばならぬ川のあり

五十嵐貞子

せきかわ川柳会作品「脳」、「軽快」、「雑詠」

本山の修行僧の軽快さ

渡辺しづい

のびのびと祖母を越えゆく子等の脳

平田 千恵

医師やさし村に診療所ある安堵

佐藤 ノブ

老い進み納得してる物忘れ

南 セツ

趣味に生き右脳の錆を削ぎ落す

本間 イミ